

# 理由表現「だけに」 をめぐって

白川博之

## ◆要旨

理由表現の中で、母語話者に選好されるのに比して学習者はあまり使うことができない「だけに」を取り上げて、意味記述の再検討を試み、母語話者に選好される理由、および、学習者が使えない理由を考える。「だけに」は「当該事態がそれだけで十分なほどの理由になっている」ことを表す。母語話者が選好するのは、①決定的な理由として示すことにより帰結の当然性／妥当性を主張できる、②その主張が聞き手と共有する論理に訴えることによって導かれる、③結果的に婉曲で慎重なトーンの表現になるためである。学習者が使えないのは、このような母語話者側の事情が理解できず、また、ほかの理由表現に比べて特徴が捉えにくい表現であるためだろう。

## ◆キーワード

決定的な理由、理由の限定、共有された論理、理由の強調

## ◆ABSTRACT

This paper deals with the reason expression *dakeni*, which is not easy to use for Japanese learners despite the preference of native speakers; the description of the meaning is revisited and the considerations are made on the background of the native speakers' preference and the reason of non-use of the learners. It is claimed that *dakeni* expresses "the sufficient reason for the result". Native speakers prefer *dakeni* because i) they can claim the naturalness/adequacy of the result by its "crucial reason" meaning, ii) the shared logic with the hearer leads to the claims, and iii) it consequently sounds euphemistic and prudent. Japanese learners cannot use *dakeni* easily because they cannot understand such circumstances of the native speakers and it is more difficult to characterize than other reason expressions.

## ◆KEY WORDS

crucial reason, restriction of the reason, shared logic, emphasis on the reason

## On the Reason Expression *dakeni*

HIROYUKI SHIRAKAWA

## 1 はじめに

原因・理由を表す接続辞には、代表的な形式である「から」「ので」のほか、「ために」、「おかげで」、「せいで」、「ばかりに」、「からこそ」、「だけあって」、「だけに」、「とあって」など、様々な形式がある。「から」「ので」以外の形式は、基本的に、「から」「ので」による言い換えが可能だが、「から」や「ので」によっては表しきれないニュアンスが付加されることによって、それぞれ独自の存在意義を保っている。それどころか、学習者が「から」「ので」を汎用する傾向にあるのに対して、母語話者は、むしろ「から」「ので」を避けてほかの形式を選択する場合が多い。そのような現実を考えると、中上級以上の学習者にとっては、これらの形式の意味を正確に理解し、できれば自らも適切に表現できるようになることが望ましいだろう。

こういった接続辞の一つである「だけに」は、新聞・雑誌・報道番組などで頻繁に使われ、学習者の目に触れる機会も多いので、的確な記述が必要な形式だと思われる。

たとえば、次のような文脈において選択された「だけに」は、「ので」で言い換えられなくもないが、そうした場合、「だけに」であれば的確に表すことのできた書き手の気持ちが読み手に伝わらなくなる。

- (1) 安倍政権は麻生太郎副総理による「ナチス発言」で早期の幕引きを図ったものの、政権ナンバー2が抱えるリスクだけに収束するかは不透明だ。安倍晋三首相が進めようとする「安部色」の政策実現にも影を落としかねない。  
(『朝日新聞』2013.8.2朝刊(10版))
- (2) ▶王貞治氏 [池内淳子さんは] 自分がホームラン王になる前からなので50年来のお付き合いでした。主役だけでなく、名脇役として活躍された印象が強いですね。頻繁に行き来していたわけではないですが、時々お会いしていただけに、突然の訃報(ふほう)に驚いております。ご冥福をお祈りいたします。  
(スポーツニッポン2010.10.1)

一方、空所補充のアンケート調査(詳しくは後述)をしてみると、母語話者が理由表現として「だけに」を選好する次のような文脈において、学習者はほとんど「だけに」を選択できないことがわかる。

- (3) 三井物産が中国の捜査当局に贈賄罪で起訴されたことは、農産物3品目の緊急輸入制限(セーフガード)や教科書問題などで日中関係が緊張している( )今後の両国間のビジネスに悪影響を与えそうだ。

(新潟日報 朝刊 2001/6/2)

〈「だけに」の選択者: 母語話者10名中8名、学習者10名中1名〉

- (4) 1990年のイラク軍侵攻で7カ月間にわたり占領されたクウェート市民の多くは、フセイン大統領への嫌悪と恐怖感を抱き続けてきた( )、政権の早期崩壊には胸をなで下ろしている。

(中国新聞 朝刊 2003/4/15)

〈「だけに」の選択者: 母語話者10名中7名、学習者10名中1名〉

そこで、この論文では、「だけに」をめぐる次のような問題について考える。

- (5) ①「だけに」の意味を、どのように説明するか。  
②理由表現として「だけに」が選好される理由は何か。  
③学習者は、なぜ「だけに」を使えないか。

## 2 「だけに」の意味

### 2.1 先行研究

国立国語研究所(1951:64)は、副助詞「だけ」の用法の一つとして「限度を画する形で程度を示す」を挙げ、それを用いた連語としての「だけに」について、「「～であるから、なおのこと」というような意味。接続助詞と見ることもできる」としている。

これは、「だけに」の意味を「だけ」と関係づけて説明した、もっとも早い時期の記述であり、「なおさらのこと」という説明は、後々の意味記述にも影響を与えることになる。「だけ」の意味を「限度を画する形で程度を示す」とし、「限度」と「程度」を結びつけた点も注目される。

一方、「だけに」の意味を因果関係の「当然性」として説明する流れがある。寺村(1991)がその代表格である。寺村(1991:172)は、この形式が典型的には「XがPダケニ、YがQ」という構造になっていることを指摘した上で、「聞き手の共感を得るために、「XがP」という、聞き手にとって既知の事実をもってき、「XがPなら、YがQなのは当然だ」と論理的な筋道で聞き手を納得させようとするものである。その「論理」というのは、つまり社会的な常識ということである」と説明している。

なお、この説明は、「ダケとニとの結合が強くなって、一体として独特の意味をもつようになったもの」(寺村1991:171)という捉え方の下でなされたものであり、なぜこのような意味になるかについての説明は見当たらない。

さらに、基本的には寺村(1991)と同様の説明をしつつも、国立国語研究所(1951)と同様に「だけ」の「程度」の意味が「だけに」に反映していると考えるのが中里(1995)である。

中里(1995:96)は、「AだけにB」の用法を、AとBの意味関係によって、次のように3分類している。

- (6) ①Bは、Aならば当然そうなると思われる事柄や状況を示す。また、Bなのは当然Bだからだという裏付けをする。  
「…だからさすがに」「…だからやはり」と置き換えられる。  
②Bは、Aでなくても成立する(AでなくてもBである)が、Aという条件が加わることで、Bという事柄や状況が強調される。  
「…だからいっそう」と置き換えられる。  
③Bは、Aから予想されるものとは逆の内容を示す。  
「…だからかえって」と置き換えられる。

その上で、「AだけにB」は、予想外の結び付きの場合も含めて、「なるほど、

AならばBになるだろう」という聞き手の共感に基づく結び付きだとしている。また、Aの内容に見合った「程度」の事柄がBに来る点で3用法は共通しているとする。

これは、「AだけにB」という表現が、一般常識に基づいた推論といった意味を基本としつつも、一様ではなく3つのタイプに分けられること、また、それは「だけ」の「程度」の意味から説明できることを主張したものである。分類③のような「意外性」の用法の存在を指摘したこともさることながら、AとBの論理関係の違いから、分類②を分類①から分出した点が注目される(特に、「BはAがなくても成立するが、Aにより強められる」という観察は卓見)。そして、何よりも、それを通じて、「だけ」のもつ「程度」の意味と「だけに」の「当然性」のニュアンスとの関係を合理的に示した点が特筆される。

以上のような議論を踏まえつつ、「だけに」における「程度」と「当然性」の関係を総括したのが、前田(2009)である。前田(2009:152)は、「AだけにB」が必ずしも副詞「当然」と共起できないことを引き合いに、「因果関係の当然さは「だけに」と直接かかわるものではない」と指摘している。

前田(2009:153)によると、「AだけにB」は「A以外と比べて、AはAである分、その分だけ、一層・より(～だ)」という意味を表している。この考えに立つと、中里(1995)の分類②の用法が「だけに」の典型的な用法ということになる。分類①・分類③も、上記の基本的な意味から説明できるという。「だけに」の意味を説明する際に「当然性」という概念は本質的でないという考え方は、結果的に国立国語研究所(1951)の記述に立ち戻るものである。

しかし、「だけに」の意味をこのように見定めたことに伴って、「Bには「程度性」を持つ内容が来なければならない」(前田2009:155)としているのは過剰な一般化だと言わざるをえない。実例を観察すると、次のように、「程度性」を持つとは言えない内容が後件(=B)に来る例が相当な頻度で見られる<sup>[註1]</sup>。

- (7) ～だけに、a. 衝撃を与えた。(例文【6】)<sup>[註2]</sup>  
b. 経済界では浅田氏の功績をしのぶ声が聞かれた。(例文【7】)  
c. 政権の早期崩壊には胸をなで下ろしている。(例文【8】)  
d. 「観客の多さにうれし涙が出た」。(例文【10】)

- e. 一過性のブームに終わらせないような取り組みが官民に必要だ。(例文【9】)
- f. 今後の両国間のビジネスに悪影響を与えそうだ。(例文【13】)
- g. 世界とともに繁栄する道を選ばざるを得ない。(例文【16】)

したがって、「だけに」の後件についての制限はもちろんのこと、「だけに」の意味記述自体も、再検討の余地があると考えられる。

## 2.2 本稿の立場

「だけに」は、文法化の途上にあるかもしれないが、「だけ」の意味が残っていることは確かだろう。その点では、「だけ」の「程度」の意味を引き継いでいるという考えに立つ国立国語研究所(1951)を始め、中里(1995)、前田(2009)の論は正しい。ただ、三枝(1991:54)も指摘しているように、「だけに」の意味を考えるには、「だけ」に加えて「に」の意味を考える必要がある。「A以外と比べて、AはAである分、その分だけ、一層・より(～だ)」という意味は、むしろ、「だけ」を説明したものではないか。

たとえば、次の(8)において、「だけ」と「だけに」は両方とも言えるが、「その分だけ、一層・より(～だ)」の意味になるのは、「だけ」のほうである。

- (8) 一生懸命勉強した {だけ/だけに}、成績はよかった。  
(前田2009:155、(200b)改変)

一方、(8)の述語に程度を表す副詞を付けると、「だけ」は不自然になる。

- (8') 一生懸命勉強した {?だけ/だけに}、成績は非常によかった。  
(前田2009:155、(200b)一部改変)

これは、まさに、「より(一層)、良かった」とは言えるが「より(一層)、非常に良かった」とは言えないからだろう。「良い」は程度性を備えた述語だが、「非常に良い」は高程度は表すもののそれ自体はもはや程度性を失っている。

「だけに」も「程度」と関係はあるが、「だけ」のように後件に程度性のある述語を要求するわけではない。「AだけにB」は、「Aである分、その分だけより(一層)B」という意味ではなく、「Aという程度に見合った帰結としてBだ」という意味ではないか。Aには、程度が甚だしいと見積られる事態が来、Bはその高程度に見合う帰結として関係づけられる<sup>[註3]</sup>。Bが帰結として解釈されるのは、「に」に原因・理由を表す機能があるからだろう<sup>[註4]</sup>。

「AだけにB」に「当然性」のニュアンスが伴いやすいのも、「そうでないのならともかく、Aというほどの事態であるため、Bという帰結になる」という解釈になるからだろう。その点では、前田(2009:153)の「「だけに」の表す理由は、それ以外の事態を理由にする場合よりも、原因・理由として、より価値が高く、その結果を容易に引き起こしうると言う、「強い因果関係」でもって、後件を結びつける」という記述は、的を射ている。

ただ、「強い因果関係」の由来は、単純に「だけ」が取り立て詞であるために他者の存在が前提にされるというよりも、Aの程度の高さを言い立てることによって、「A以外の事態が原因・理由として考えられるとしても、Aに比べると帰結に結びつく度合いが低い」ということが暗に示されるのだろう。

以上のことを踏まえると、「だけに」の意味は、次のように記述できるだろう。

- (9) 当該事態以外にも理由はあり得るが、当該事態がそれだけで十分なほど(話者にとって)後件の理由になっている。「～ということがあるので…」といった意味。聞き手が「～であるなら、…という帰結になるのももっともだ」と思えるような事柄を理由として提示する。

なお、実例を観察すると、後件には客観的事実だけでなく、判断が来る場合が散見される(たとえば(7e-g))。その場合、そう判断することの妥当性を表現することになる。

## 3 理由表現をめぐる母語話者と学習者の選択傾向の違い

「だけに」に関する母語話者と学習者の選択意識についての検討に入る前に、

その前提として、理由表現をめぐる選択傾向の違いについて確認しておく。

筆者は、理由表現をめぐる母語話者と非母語話者の選択傾向の違いを調べるために、小規模なアンケート調査を行った。

調査協力者は、母語話者12名、学習者（非母語話者）11名であり、いずれも、日本のP大学・Q大学（いずれも国立大学法人）および台湾の私立R大学の大学院生である（母語話者については一部学部生を含む）。学習者の母語は、中国語10名、韓国語1名である。

BCCWJ（通常版、レジスター「出版・新聞」）を用いて収集した理由表現「だけに」の用例128例の中から16例を調査文として選定し、「だけに」の部分空欄にして、「だけに」を含む12の理由表現の中からもっとも適当と思うものを選んで記入してもらい（併せて簡潔にコメントも書いてもらう）形で調査紙を作成した（付録参照）。

調査協力者にメール添付で調査紙を送付し、それに回答を書き込んで返送するよう依頼した。調査時期は、2017年10月である。

各調査文についての母語話者・学習者の選択結果は、表1、表2のとおりである<sup>[注5]</sup>。

予備調査を行わなかったため、必ずしも「だけに」が典型的に使われる文脈の例文ばかりによる調査にはなっていないのが悔やまれる<sup>[注6]</sup>が、それを置いても、表1と表2の比較から次のようなことが窺える。

- ①多数の母語話者が「だけに」を選択する文脈でも、学習者はあまり選択しない。（例文5、6、7、8、9、13）
- ②母語話者は「から」「ので」をあまり選択しないが、学習者はよく選択する。
- ③学習者は、「からこそ」「せいで」「おかげで」「ばかりに」は、比較的（母語話者と比べて）よく選択する。

## 4 「だけに」が理由表現として母語話者に選好される理由

学習者との比較からわかるように、母語話者は、「から」「ので」をあまり使わない一方で、「だけに」は好んで使う。

表1 母語話者の回答結果

例文	回答者	J1	J2	J3	J4	J6	J7	J8	J9	J11	J12	「だけに」 選択者数
1	母語話者	ものだから	だけに	せいで	せいで	ものだから	だけに	ので	ものだから	だけに	ものだから	3
2	母語話者	だけあって	とあって	だけあって	とあって	だけあって	だけあって	だけあって	とあって	とあって	だけあって	0
3	母語話者	だけに	だけに	だけに	ために	だけに	だけに	ので	だけに	だけに	ために	5
4	母語話者	ために	だけに	とあって	だけに	ために	だけに	とあって	だけに	だけに	だけに	6
5	母語話者	だけに	だけに	だけに	だけに	だけに	だけに	だけに	だけに	だけに	だけに	9
6	母語話者	とあって	だけに	だけに	だけに	だけに	とあって	だけに	だけに	だけに	だけに	8
7	母語話者	だけに	とあって	だけに	だけに	だけに	とあって	だけに	だけに	だけに	とあって	7
8	母語話者	とあって	だけに	だけに	だけに	だけに	とあって	だけに	だけに	だけに	だけに	7
9	母語話者	だけに	だけに	だけに	だけに	からこそ	だけに	からこそ	とあって	だけに	とあって	8
10	母語話者	からこそ	だけに	だけに	だけに	だけに	だけに	ので	とあって	だけに	とあって	5
11	母語話者	ものだから	だけに	だけに	だけに	だけに	だけに	だけに	ものだから	だけに	だけに	5
12	母語話者	ものだから	だけに	だけに	だけに	だけに	とあって	だけに	とあって	だけに	とあって	8
13	母語話者	ばかりに	だけに	だけに	ので	だけに	とあって	だけに	だけに	とあって	とあって	3
14	母語話者	ばかりに	とあって	だけに	だけに	からこそ	とあって	からこそ	だけに	だけに	からこそ	4
16	母語話者	ばかりに	だけに	だけに	せいで	のだから	ばかりに	ばかりに	だけに	のだから	だけに	4

表2 学習者の回答結果

例文	回答者	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C10	C11	「だけに」 選択者数
1	学習者	から	ので	せいで	せいで	ので	だけに	ので	ので	から	だけに	2
2	学習者	だけに	とあって	とあって	からこそ	のおかげで	からこそ	のために	だけに	だけあって	だけあって	2
3	学習者	からこそ	から	おかげで	から	だけあって	ので	とあって	ので	だけに	だけに	2
4	学習者	からこそ	から	おかげで	ものだから	だけに	せいで	ので	ので	だけに	だけに	2
5	学習者	ものだから	からこそ	ばかりに	だけに	からこそ	ばかりに	だけに	だけに	ので	だけに	4
6	学習者	ばかりに	せいで	ために	だけに	ために	から	だけに	ために	からこそ	だけに	3
7	学習者	だけに	だけに	だけあって	おかげで	とあって	からこそ	だけあって	ので	のために	だけに	3
8	学習者	ものだから	のだから	ので	ので	ばかりに	ばかりに	から	ので	おかげで	だけに	2
9	学習者	だけに	からこそ	から	とあって	からこそ	とあって	からこそ	の	から	だけに	2
10	学習者	だけあって	おかげで	から	とあって	ので	とあって	だけあって	だけあって	のだから	だけに	1
11	学習者	だけに	ものだから	からこそ	から	だけに	ものだから	ので	ので	のだから	だけに	3
12	学習者	だけに	ので	だけに	からこそ	だけに	ために	で	だけに	せいで	だけあって	4
13	学習者	から	ばかりに	とあって	とあって	ばかりに	ために	せいで	ばかりに	ばかりに	だけに	1
14	学習者	ばかりに	から	のだから	ばかりに	ために	ばかりに	から	せいで	のだから	ばかりに	0
15	学習者	だけに	のだから	からこそ	だけあって	のために	だけあって	から	ので	から	からこそ	1
16	学習者	からこそ	からこそ	ものだから	からこそ	ために	だけに	ために	ため	ので	からこそ	1

その理由として、第一に考えられるのは、決定的な理由として当該事態を示すことにより、帰結の当然性ないし妥当性を主張できることである。(9)で述べたとおり、「だけに」は、話し手が当該事態を「それだけで十分なほど(話者にとって)後件の理由になっている」という高い見積もりでもって捉えていることを表している。これは、ほかにも理由があり得るにせよ、当該事態が帰結を導く決定的な理由であると主張することにほかならない。

第二に、この主張が、話し手の主観的な論理ではなく、聞き手と共有する論理に訴えることによって導かれていることである。これも(9)で述べたことだが、「だけに」は、「聞き手が「～であるなら、…という帰結になるのももともだ」と思えるような事柄を理由として提示する」。これは、「ものだから」と一脈通じる表現方法であり、聞き手も容易に納得するような線で論理を組み立てようとする「日本的発想」を背景にもつ表現方略であると言える<sup>[註7]</sup>。

第三に、ほかにも理由があり得ることを暗示して、理由を当該事態に限定していないため、結果的に、婉曲で慎重なトーンの表現になることである。自分自身は当該事態が決定的な理由だと考えているとしても、「から」や「ので」を使うと、理由を限定しているかのように聞こえてしまう。一般に、ある帰結に至るとき単独ではなく複合的な理由が存在するのが普通だろうから、理由となり得るほかの事態の存在を否定するかのような表現は日本語では避けられる。

なお、この表現心理は、より一般化したレベルで考えるなら、次のように「限定を避ける」表現が日本語では好まれることと軌を一にするものと思われる。

- (10) ①今日は、西安の名物料理を三つほど紹介したいと思います。  
②今日はこのへんでおしまいにしましょう。  
③それでしたら、これなど(なんか)はどうでしょう。  
④わたしが戻ってくるまで、コーヒーでも飲んで。

(井上2013:167-168)

これは、井上(2013:167-168)も述べているように、日本語が「ぼかした表現」を好むということではない。日本語では、こうした表現を用いなければ、逆に、

「限定が強すぎるので、適度にぼかす必要が生じる」ためである。

## 5 学習者はなぜ「だけに」が使えないか

調査結果から、多数の母語話者が「だけに」を選択する文脈でも、学習者はあまり選択しないこと、また、母語話者は「から」「ので」をあまり選択しないが、学習者はよく選択することがわかった。この2つは、連関している。すなわち、母語話者が「から」「ので」を避けて「だけに」等ほかの理由表現を使う傾向があるという事実とその理由を、学習者はよく理解していないのだと思われる。「だけに」の意味・用法を説明する際、同時に、「から」「ので」で代替したらどのようなニュアンスになるかということの説明する必要があるだろう。

その一方で、学習者は、「からこそ」「せいで」「おかげで」「ばかりに」は比較的(母語話者と比べて)よく選択することもわかった。

ある学習者(C7)は、調査におけるコメントの中で、「から」と「ので」の使い分けの難しさを述べた上で、「おかげで」「せいで」「ばかりに」など特殊な場面でしか使えない表現の方が、かえってそんなに難しくないと感じました(下線は引用者)と自己分析している。「おかげで」「せいで」「ばかりに」と比べると、「だけに」は、特徴が捉えにくい表現であると思われる<sup>[註8]</sup>。

特徴が捉えにくいという点では、「からこそ」も同様であるように思えるが、「だけに」に比べれば学習者は母語話者よりもよく選択している。学習者のコメントから察するに、これは、「理由を強調している」文脈だと感じると、学習者は「からこそ」を選択する傾向があるためだと思われる。

たとえば、10名中4名が「からこそ」を選択した例文16について、学習者は、次のようなコメントを記している。

- ・唯一のものとして取り上げ強調する。(C2)
- ・「資源がない」という現状を強調していると考えられる。「からこそ」を使うべきだと思われる。(C4)
- ・主文に「…ざるを得ない」という当為評価のモダリティがあるから、「から」

も「からこそ」も「だけに」も可能であるが、文脈から見れば、「日本は資源がない」は「世界とともに繁栄する道を選ばざるを得ない」のほかならぬ理由であるから、「からこそ」のほうが適切だと思う。「だけに」にも言い換えられそうである。(C1)

また、例文9 (10名中3名が「からこそ」を選択) については、次のようなコメントがあった。

- ・話し手が最も主張したい部分。(C2)
- ・「宇宙開発」に期待していることを強調しているのに、「からこそ」を使うべきだと考える。後ろの「一過性のブームに終わらせないような取り組み」の必要性も主張ということを証明していると思われる。(C4)

いずれの例文も、原文では「だけに」が用いられているが、何らかの意味で「理由を強調する」文脈のように理解されるだろうことは、想像に難くない。そのような文脈においては、学習者は、「からこそ」を選択しやすいのではないかと思われる。「だけに」も、当該事態を「決定的な理由」と捉えるのであるから、ある意味で「理由の強調」と言えるが、学習者にとっては、「理由の強調」と言えば、まずは「からこそ」が想起されるのだろう。

## 6 おわりに

この論文では、母語話者に選好されるのに比して学習者はあまり使えない理由表現「だけに」を取り上げて、意味記述の再検討を試み、母語話者に選好される理由、および、学習者が使えない理由を考えた。

文章展開の過程でどのように「だけに」が使われるかということが今後の課題として残る。これは、「それだけが理由なのではないが決定的な理由である」ということの内実を明らかにする作業であり、そこまでやってこそ、学習者にとって腑に落ちる説明になるものと思われる。

「だけに」は、日本語能力試験のレベルで言えばN2の項目である。N1の項

目と異なり、N2の項目は母語話者が使用する頻度も高く、学習者の目に触れる機会も多い。その分、辞典や参考書において、納得のいく説明が期待されるところだが、実際は、どの項目に当たっても、もう一步踏み込んだ記述が欲しいという物足りなさを感じる事が常である。この論文は、そういった問題意識に立って考察した、いわば、ケーススタディである<sup>[註9]</sup>。 (広島大学)

### 付記

本稿は、一橋日本語教育研究会(2017年11月18日、一橋大学)における講演に基づいている。当日コメントを賜った方々に改めて感謝します。また、この研究は、国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」の利用による成果である。

### 注

- [注1] …… BCCWJ(通常版、レジスター「出版・新聞」)を用い、文字列「だけに」で検索して収集した160例中、理由表現の「だけに」128例について分析した。
- [注2] …… 前後の文脈も含めた例文については、論文末の付録を参照されたい。
- [注3] …… グループジャマシィ(1998:596)に「ものだから」について、「事態の程度が激しい、あるいは重大で、そのせいで何かをしてしまった」ということを述べるのに用いられることが多い」という説明があるが、この説明は、むしろ、「だけに」のほうにより当てはまるように思われる。ちなみに、「だけに」の実例を観察すると、「ものだから」と言い換えが可能なものも多い。
- [注4] …… 三枝(1991:54)は、「に」の基本的な意味を「場面性」と捉え、「だけに」の基本的な意味を「場面の限定性」と考えている。
- [注5] …… 集計に当たり、母語話者のうち、「だけに」をまったく選択しなかった者1名(J5)、すべて「だけに」を選択した者1名(J10)を外れ値として除外した。また、学習者のうち、「だけに」をまったく選択しなかった者1名(C9)を外れ値として除外した。韓国語話者である1名(K1)も念のため集計から除外した。
- [注6] …… 表1をみると、約半数の例文について「だけに」の選択者が半数以下であり、「だけに」を典型的に使う文脈を備えた例文ばかりではなかったことがわかる。
- [注7] …… 蓮沼(2010:77)は、「ものだから」について、「事態の本来の性質から自動的に導かれる結果」を述べるという機能をその中核にもつものと結論づけ、「結論を相手に押しつけけない形で理解を促す」効果があると述べている。

【注8】 …… もちろん、次のように、「だけあって」と代替可能な用法（「～ので、それにふさわしく」の意）は、パターン化して理解しやすいと思われる。

- (i) お茶の先生だけに言葉遣いが上品だ。
- (ii) 彼は現職の教師だけに受験についてはくわしい。
- (iii) かれらは若いだけに徹夜をしても平気なようだ。

(グループジャマシィ 1998:193)

【注9】 …… 同じ主題について論じた白川 (2016) も併せて参照されたい。

## 参考文献

- 井上優 (2013) 『相席で黙ってられるか 日中言語行動比較論』岩波書店  
グループジャマシィ (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版  
国立国語研究所 (1951) 『現代語の助詞・助動詞一用法と実例』秀英出版  
三枝令子 (1991) 「「だけに」の分析」『言語文化』27, pp.47-63. 一橋大学  
白川博之 (2016) 「もう一歩進んだ日本語文法一納得のいく文法説明を求めて」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部』65, pp.169-175. 広島大学大学院教育学研究科  
寺村秀夫 (1991) 『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版  
中里理子 (1995) 「「だけに」「ばかりに」の接続助詞の用法について」『言語文化と日本語教育』9, pp.87-98. お茶の水女子大学日本語文化学研究会  
蓮沼昭子 (2010) 「自然談話における「モノダカラ」について」『日本語教育連絡会議論文集』22, pp.69-78. 日本語教育連絡会議  
前田直子 (2009) 『日本語の複文 条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版

## 【付録】原因・理由表現に関する調査 (原文は段組なし、10.5ポイント)

以下の【1】～【16】の文章を読んで、空欄にもっとも適当だと思う理由表現(下記リストを参照)を一つ記入してください。そして、末尾にあるコメント欄に簡潔にコメント(選択の理由、ほかの選択肢の可能性、など)を記入してください。問題ごとにコメントしてもかまいません。

から、ので、ために、おかげで、せいで、ばかりに、からこそ、のだから、ものだから、だけあって、だけに、とあって

### 【1】

9月中旬、会社の同僚十二人で神奈川県・

江の島にイナダ(ブリの若魚)釣りに出かけた。朝から雨がポツリ、ポツリ。船に乗り込んで海上へ出るころには、本格的な降りとなった。雨がっぱを着ているといっても、雨の中の釣りは、気分が落ち込んでしまう。

おまけにイナダ釣りは初めて。かったくりという竿を使わず、糸巻きを使っての手釣りだ。えさをつけて海へ落とし込むが、経験がない( )何かおぼつかない。深さは20～30メートルほど。

グイッとやっ手ごたえ。でも魚が暴れまわっている。引き上げたら30センチ弱のソウダガツオ。続いてまた同じような手ごたえ。今度はほぼ同じ大きさのサバ。そして、

今度は重い手ごたえ。待ちに待ったイナダらしい。海面近くまで上がってきた。やっぱりそうだ。初めてのイナダ。喜んで引き上げようとした途端、針から外れて海中へ。うーん残念。

これが最初で最後のイナダとの出会いだった。サバとカツオは十数匹釣れたものの、結局イナダはゼロ。ほかの同僚は全員数匹釣ったというのに。

でもこんなこといつものこと。狙った魚が思い通り釣れることの方が少ない。「悪いことばかりは続かない。そのうちきっといいことあるのでは」と思うことにした。本当にそうならないのだけれど…。

(毎日新聞 夕刊 2002/10/16)

### 【2】

探検隊をして「精巧でエジプト風」と感嘆させたアーチの門や、カーブを描く城壁が、力感を持って迫ってきた。

やっぱりすごいな…。思わず声に出た。

少年時代、ペリーの『日本遠征記』でこの城跡の美しい挿絵を見、一度じっくり歩いてみたいと思っていた。沖繩史に忠臣の鑑として名を残す護佐丸(?-1458年)の城。どこか、石の文明を連想させる迫力がみなぎっている。

中城、北中城両村にまたがる城跡は面積約11ヘクタール。15世紀に使った中国伝来の「火矢」の金属弾などが出土し、築城技術にも中国の影響が見られる。海外との交渉が盛んだった事がわかる。

地元、中城村の文化財案内人、百名一子さんの案内で、城内の六つの郭すべてを歩いた。

石垣に網のように根を張ったガジュマルなどが、ぼったり刈り取られているのが目についた。南国( )木の成長が速いが、放置すると、根が太って内側から石積みを壊したり、台風で根こそぎ木が倒れて石垣を崩す

からだ。

「ガスが無い昔は、地元の人が薪用に木を取るので、石垣がいつもきれいになってました。ほったらかして、何もしなければ保護につながる、というわけではないのです」と百名さんは話す。(読売新聞 夕刊 2002/4/11)

### 【3】

取材に応じた唐元教授は、提携を決めた蔣・周会談の合意が「口頭了解」にとどまったとしている。これは、会談への同席を含めて張学良氏がやりとりや結果を把握していたことを裏付けるとともに、肝心の内容は今回の記録でも全容判明には至らなかったことを示すといえる。

張氏自身が事件についてまとめた文書として、これまで「西安事件懺悔録」が歴史家の間では知られていた。台湾へ移送後の1956年に蔣介石あてに書かれたいわば非公開の文書だが、64年と68年に台湾と香港で雑誌にもれている。

現在、確認できるのは香港「明報」誌掲載のものだ。報道によれば今回の公開分にはこの「懺悔録」の手書き原稿が含まれるという。修正箇所も多いとされ、これまで知られた内容との比較によって新たな事実や張氏の心の揺れなどが読み取れる可能性がある。

今回の公表内容は、分量も膨大である( )、多くの研究者の分析や他の史料との照合、比較といった作業を経て、やはり新たな史実が浮かび上がる期待は十分ある。また、張氏の心情を記した日記などは、それ自体が歴史の証言として価値あるものだ。今秋の史料刊行を待つことなく、興味深い事実が今後、次々に明らかになることが期待される。(産経新聞 朝刊 2002/6/7)

### 【4】

◇CATCH (仙台 後6・30)

田中康夫前長野県知事の「脱ダム宣言」で

注目を集めたダム事業。膨大な費用と時間がかかる（ ）継続でも中止でも波紋は大きい。宮城県でも鳴瀬川流域の筒砂子ダム建設事業をめぐる継続を望む住民、地権者と休止を打ち出した県との対立が続いている。宮城のダム騒動を通し、巨大公共事業のあり方を考える。（河北新報 朝刊 2002/8/10）

## 【5】

18日開かれた日米首脳会談で、沖縄の基地問題に関して踏み込んだ発言はなく、米軍普天間飛行場代替施設の十五年期限問題、地位協定も触れられなかった。「絶好の機会だったのに」「期待はまったくしてなかった」。県内の関係者からは落胆、批判の声も聞こえてきた。

米軍関係の事件事故が相次ぐ北谷町。昨年6月の米兵女性暴行事件、今年に入り基地跡油汚染問題が起きた美浜がある宇地原区の仲地明吉自治会長は「問題が起きる度、地位協定の改定を区民は求めてきた（ ）残念」と落胆。「改定の話のできる絶好の機会だった。首相は沖縄問題を小さなものと考えているのか」と批判した。

（琉球新報 朝刊 2002/2/19）

## 【6】

〇〇〇〇・社民党元衆院議員の秘書給与詐取事件は、鈴木宗元元衆院議員の金銭スキャンダル追及の先頭に立つなどしていた（ ）衝撃を与えた。この逮捕が11月の総選挙での社民党大敗の一因ともみられている。

（毎日新聞 朝刊 2003/12/30）

## 【7】

関西経済同友会の浅田和男代表幹事（NTT西日本相談役）が28日急逝したことで、関西の経済界は衝撃を受けた。IT（情報技術）を活用し次代を担う人材を育成する講座「サイバー適塾」を開設したり、京阪神の同友会

の結束を呼びかけるなど、従来の慣習にとらわれない斬新な発想を実践した（ ）、経済界では浅田氏の功績をしのぶ声が聞かれた。

浅田氏が死去した同日午後には、定例の代表幹事会見が予定されていた。本来は、もうひとりの代表幹事である寺田千代乃アートコーポレーション社長と並び、経済情勢などについて意見を述べる場。だが、この日ばかりは寺田氏が「浅田さんの遺志を継ぎ、京阪神が一体となった観光振興策に力を入れたい」と声を詰まらせた。

浅田氏は一昨年五月に代表幹事に就任し、サイバー適塾の開校に尽力した。四月には第一期の修了生が誕生するが、その成果を見届けることはできなかった。

また「関西経済の再生には、大阪、京都、神戸の三都市の結束が不可欠だ」との認識から、京阪神三つの同友会で戦略会議を発足させるなどし、リーダーシップを発揮した。

（産経新聞 朝刊 2003/3/29）

## 【8】

1990年のイラク軍侵攻で七か月間にわたり占領されたクウェート市民の多くは、フセイン大統領への嫌悪と恐怖感を抱き続けてきた（ ）、政権の早期崩壊には胸をなで下ろしている。

経営学専攻のクウェート大生ラシドさん（22）は「フセイン政権は悪だった。政権交代には米国の武力が必要だった。一時は戦争の長期化も覚悟したが、約3週間で崩壊に追い込んだのは大成功」と歓迎する。

（中国新聞 朝刊 2003/4/15）

## 【9】

ただ、安いとはいえ衛星製作費は億単位。商売につなげるためには、用途面の価値をいかに創造するかが課題だ。衛星を打ち上げるロケットの問題もある。東大阪などは、国産

大型ロケット・H2Aへの“便乗”を望むが、昨年の失敗で先行きは不透明。ロシアのロケット利用など、打ち上げ手段の検討も欠かさない。

国が新規参入を歓迎するもう一つの理由は、宇宙開発関連部品の事情だ。宇宙開発予算が減少する中、製造から撤退する企業が目立つ。海外部品は輸入手続きに時間がかかり、故障時に原因を究明しにくいなどの問題がある。宇宙機構は新たな調達先を求めており、東大阪の拠点作りにはこうした背景もある。

現時点では、国と新規参入組の思惑は合致する点が多い。だが、大手企業などからは「国は国にしかできない大型プロジェクトをきちんとやるべきだ」との意見もある。硬直した宇宙開発に新風を吹き込むと期待される（ ）、一過性のブームに終わらせないような取り組みが官民に必要だ。

（読売新聞 朝刊 2004/8/25）

## 【10】

日本初となる野球の独立リーグ「四国アイランドリーグ」が29日、松山市の坊っちゃんスタジアムで開幕。7,067人が愛媛マンダリンパイレーツと高知ファイティングドッグスの対戦に声援を送った。

元オリックス監督で、同リーグを運営する「IBL」（本社・東京）の石毛宏典代表（48）は、スポンサー獲得や選手集めに奔走してきた（ ）、「観客の多さにうれし涙が出た」。試合後は、選手と一緒に出口で観客を見送るなどサービスに努めた。

（読売新聞 朝刊 2005/4/30）

## 【11】

受賞者の言葉 山形大学長 山道富士郎氏（66）若い人材の育成を図る 私の仕事が評価されたことに感謝する。受賞対象の研究は、私の原点の仕事だった（ ）なおさらうれし

い。30年以上前の成果で、がん細胞を殺すリンパ球の発見は、免疫学の分野で注目された。今回の受賞を機に今後、自然から人間に与えられたものに素直に向き合い、研究に取り組む若い人材を育てていきたい。

（河北新報 朝刊 2005/1/18）

## 【12】

### ▼三十路前

あと少しで三十路に手が届く甘木さん。職場の後輩には「もう大台だから」と冗談めかしつつ、心中では「私って年の割に若いかも」と一人ほくそ笑んでいた。

ある日のこと。甘木さんは、後輩たちと撮った写真を見てがくぜんとした。自分だけ肌の張り、つやが違うのだ。仕事を早々に切り上げ、デパートの化粧品カウンターへ直行。店員が薦める間もなく「それ、ちょうだい。あれもちょうだい」と新製品を買いきった。「ああ、これで安心。お金を払っただけで、若さを取り戻した気分になった甘木さんだった。

### ▼三十路後

三十路をちょっとだけ過ぎた辛木さんは最近悩みがある。シャンプーのとき、抜け毛が増えた気がするのだ。さらさらヘアは辛木さんの自慢。職場のおしゃれ通を自任する（ ）気が気でない。育毛剤を買いに走り、朝に夕にじゃんじゃん頭に振りかけていた。

そんな辛木さんは、毎月欠かさず美容院に通う。なじみの美容師にカットを頼み、雑誌を読みふけていると、「白髪増えたねー。#白髪染めしようか」と衝撃の一言が。抜け毛対策は万全だったのに、今度は白髪か…。新たな敵に闘志を燃やす辛木さんだった。

（新潟日報 夕刊 2005/5/25）

## 【13】

三井物産が中国の捜査当局に贈賄罪で起訴されたことは、農産物三品目の緊急輸入制限

